

## 令和3年度の取組について

(北九州モデルの普及と感染症対策に資する先進的介護の新たな展開)

### 【背景】

少子高齢化の更なる進展に伴い、生産年齢人口が減少する局面へと社会状況が変化中、介護サービスの質と量を適正に確保する観点から、介護人材の確保・定着及び介護現場における生産性向上の促進が急務となっている。

そうした状況において、本市がこれまでに取り組んだICT・介護ロボット等を活用した北九州モデルの導入実証により、介護の質を維持しつつ、介護現場の生産性向上を実現できることが確認され、介護現場の働き方にパラダイムシフトをもたらす転換点を迎えている。

一方、昨今のコロナ禍において、介護現場では感染症の発生・拡大の防止に多大なエネルギーを割かれるのを余儀なくされ、現場職員の負担が増大するなど、介護サービスの持続可能性の向上に向けた新たな課題が生じている。

### 【取組の方向性】

- 北九州モデルの普及による市内の介護施設における介護の質の向上及び生産性向上の実現。
- 北九州モデルの普及を図ることで促進される介護現場のICT化をベースとした、ポストコロナにおける介護現場の働き方のさらなる高度化により、介護サービスの持続可能性向上と利用者のQOL向上への寄与。
- 介護現場のICT化をベースとした「遠隔・非接触」の介護を効果的に実践することによる感染症に強い介護現場づくりへの寄与。

### 【全体の取組概要】

令和3年度は、過去5年間の取組から得られた実績・成果と今後の社会ニーズ等を踏まえ、新たな取組フェーズへの移行に伴う事業展開を進める初年度となる。

第一の方向性として、これまでの成果である「北九州モデル」の普及を着実に進めるため、介護施設を対象とした導入支援拠点の設置、導入・実践ガイドラインの精緻化、介護施設における円滑な業務運営に資する環境づくり支援のほか、介護現場のニーズを幅広く捉え、北九州モデルの実践効果を高めるための機器の開発・改良等に取り組む。

第二の方向性として、ポストコロナを踏まえ、これまでの先進的介護の付加価値を高める新たな領域への発展を見据えた「感染症に強い介護現場づくり」に資する

よう、介護記録データ等の分析による「予測型介護」の研究、感染症の発生予防に資するICTを活用した「遠隔・非接触」の介護の効果的実践による働き方の検討、さらには、効果的な換気方法といった施設環境を対象とした感染制御に関する研究等に取り組む。

## 【主な取組の概要】

### 1 介護施設における北九州モデルの導入を支援する支援拠点の開設

北九州モデルの導入を希望する介護施設等に対して、導入の検討段階から実践までを継続的に伴走支援する「北九州市介護ロボット等導入支援・普及促進センター」を新たに開設。

#### 【主な支援機能】

- ① 介護施設からのワンストップ相談支援
  - ・北九州モデルの導入・実践支援
  - ・介護ロボット等の導入に関する支援 等
- ② 北九州モデルの再現エリア等の設置
- ③ 介護ロボット等の体験展示・試用貸出
- ④ 人材育成（介護ロボットマスター育成講習の開催）
- ⑤ 介護ロボット等の導入支援強化に資するメーカーとのネットワーク構築
- ⑥ 介護現場ニーズを機器等の開発・改良に結び付けるための活動を行う場の提供

※⑤⑥については、FAISが事務局となっていた「北九州市介護ロボット開発コンソーシアム」を発展的に解消し、その後継機能として、支援拠点へ移管。

### 2 介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム構築事業

厚生労働省「介護ロボットの開発・実証・普及のプラットフォーム構築事業」の実施自治体として、ICT・介護ロボット等に関する開発から普及までの地域における相談窓口（地域拠点）を設置し、本市が設置する支援拠点とも協調しつつ、以下の取組を行う。担当エリアは、福岡、大分、佐賀、長崎の4県。

- ① 介護現場への支援
  - ・介護ロボット等の導入方法や活用方法に関する相談に対する製品情報や補助制度の紹介等
  - ・介護ロボットの体験展示・試用貸出
  - ・研修会等の開催
- ② 開発企業への支援
  - ・介護ロボット等の研究開発や製品PRに関する相談に対する補助制度やイベントの紹介等

### 3 北九州モデルの実践効果を高めるための機器の開発・改良等

介護の間接業務の自動化を促進するセンサーやICTを含む機器間連携や、感染症予防に資する「遠隔・非接触」の介護の支援といった、北九州モデルの実践効果を高めるための機器の開発・改良に取り組む。

### 4 介護データの分析による「予測型介護」の研究

令和元年度の実証で連携したパナソニック(株)が研究・開発を進める、介護記録データを活用した「予測型介護」(疾病の発症・重症化予測等による革新的なケアの改善)に関し、同社、市内学術機関及び介護職員等が参画する共同研究による、介護現場のニーズを捉えた活用目的(例:排泄のタイミング予測、看取り期における状態把握)に対するアウトプット(職員への示唆)の提供に向けた研究を行う。

### 5 感染症の発生予防に資するICTを活用した「遠隔・非接触」の介護の効果的実践による働き方の高度化に関する検討

職員間や利用者を含む施設内における三密を防ぐ活動スタイル及び、感染リスクの低減に資する業務の省力化・効率化の方策や働き方の検討、施設運営のあり方等について介護関係者、有識者等で検討を行う。

### 6 施設環境を対象とした感染制御に関する研究

新型コロナウイルスなどのエアロゾル感染を引き起こす感染症に関し、介護施設行われている換気に係る効果的な感染制御の方策を取りまとめるため、市内学術機関やFAIS等と連携し、実態調査や検証等による分析・評価を踏まえた研究を行う。

### 7 介護施設における円滑な業務運営に資する環境づくり支援

介護施設運営に対する行政の慣行的な規制や解釈、いわゆる「ローカルルール」に関し、介護の間接業務の効率化のために導入した見守りセンサーやICT機器の効果が損なわれることのないよう、北九州モデルを実践する上での支障となり得る課題に対する、適正かつ統一的なルールの制定等について検討する。

#### 【ワーキンググループの発展的解消について】

介護ロボット等導入実証事業の推進を図るため設置した「介護ロボット等導入実証事業ワーキンググループ」については、令和3年度からの事業の新たな取組フェーズに移行することから、令和2年度末をもって発展的に解消。